

全社のBIプラットフォームとしてTableauを活用 IT部門の積極的な“伴走”で全社の“デジタルの民主化”に貢献



会社概要

AGC株式会社

<https://www.agc.com/>

業種：製造業

従業員数：
56,179名 (2020年12月31日現在)

資本金：908億7,300万円 (2020年12月31日現在)

所在地：〒100-8405 東京都千代田区丸の内1-5-1

事業内容：
1907年に創立。ガラス、電子、化学品、セラミックス等の分野で、30を超える国と地域で事業を展開。2018年7月に社名を旭硝子株式会社からAGC株式会社へと変更。グループビジョン“Look Beyond”では独自の素材・ソリューションで、いつもどこかで世界中の人々の暮らしを支えることを定めており、社名変更と同時にブランドステートメント“Your Dreams, Our Challenge”も制定した。

導入製品

導入時期：2015年

導入製品：
Tableau Creator ライセンス数：約200
Tableau Viewer ライセンス数：約2,800

主な利用環境：社内全体のデータ活用基盤。社内のほぼ全ての部門が、様々な用途でTableauを活用している。

導入に要した期間：約2か月

Before 導入前の課題

社内には様々なシステムがあるが、以前はそれらからExcelにデータを抽出して集計・加工を行っており、分析前の準備作業に多くの時間が費やされていた。その結果、データ活用レベルがなかなか向上しなかった。

After 導入後の効果

Tableauを業務部門が自ら活用することで、分析・仮説・検証に費やせる時間が増えた。DXの推進でもTableauが活用されており、現場の「カイゼン」のサイクルも高速に回せるようになっている。

導入の背景

2018年7月に「旭硝子株式会社」から現在の社名へと変更し、“Look Beyond”という企業理念のもと、将来を見据えた活動を積極化しているAGC株式会社。グループ全体のブランドステートメントとして“Your Dreams, Our Challenge”を制定し、世界中の人々の夢の実現に挑戦しています。

「AGCには多岐にわたる事業があり、情報システムも様々なものが存在します」と語るのは、AGC情報システム部で部長/グローバルITリーダーを務める伊藤肇氏。以前はこれらのシステムから抽出したデータをExcelで集計・加工していたと振り返ります。「この作業に8割の時間が費やされており、分析・仮説・検証といった考える時間が2割しかないという状況でした。その結果、データ活用レベルがなかなか上がらなかったのです。」

そこでAGCの情報システム部ではガートナー社が発表しているハイブサイクルなどを参考にしながら、どのような形でデータ活用を進めていくべきかの検討が進められていきました。その結果導き出されたのが、システム統合を行いデータの入り口から着手するという王道アプローチではなく、システムはバラバラのままでも、集めたデータから有用な示唆を導出できる分析基盤を「最短ルート」で構築するという方法でした。時間をかけてデータを統合するより先に、後者に着手する方が価値があると判断されたのです。

2015年4月にはそのためのBIプラットフォームとしてTableauを導入。しかし、新たな分析ツールを待望していたユーザーには好評だったものの、それ以外のユーザーにはなかなか受け入れられてもらえない状況が続いたと伊藤氏は語ります。

「導入してから2年間はインベーターやアーリーアダプターに受け入れられる段階でとどまり、マジョリティへの普及の前には大きな壁が立ちました。このとき、プラットフォームが良いだけでは普及しないということも、痛感したのです。」

Tableau 導入・運用環境

そこで2017年には壁を乗り越えるための取り組みをスタート。まず行われたのが、マジョリティに訴えるための草の根プロモーション活動でした。

「まず、すでにTableauを活用しているユーザーに依頼し、成功事例をお披露する事例共有会を開催しました」と語るのは、AGC情報システム部グローバルIT戦略室でマネージャーを務める田中丈二氏。この事例共有会には約100名の社員が参加し、参加後のアンケートでも「Tableauについて全く知らなかった

社内講習カリキュラム

Web閲覧編	Web編集編	初級編	中級データ加工編	中級関数・表計算編	中級ダッシュボード・サーバー活用編	Tableau Prep編	サーバープロジェクト管理者編	ページ数	時間
<ul style="list-style-type: none"> Tableauとはなにか? ブラウザでのレポート閲覧方法/便利機能活用 	<ul style="list-style-type: none"> ブラウザでの既存レポートの修正方法 テンプレートからの新規レポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> Tableau Desktopを使用したレポート作成 ダッシュボードを用いたインタラクティブ分析 	<ul style="list-style-type: none"> デスクトップ上での結合・ユニオン・ブレンド (Prep編とは別) 	<ul style="list-style-type: none"> 高度な表計算、関数、パラメータの使い方 LOD表現 	<ul style="list-style-type: none"> 高度なダッシュボードの作成、アクションの活用 抽出Job作成のコツ、増分更新・フィルタ 	<ul style="list-style-type: none"> Tableau Prepを用いた結合・ユニオン・集計 データクリーニングの方法 	<ul style="list-style-type: none"> AGC Tableau Server利用時のルール プロジェクト管理者向けレポートの利用法 	120頁	2時間
								100頁	3時間
								300頁	8時間
								100頁	3時間
								100頁	3時間
								120頁	3時間
								130頁	4時間
								90頁	2時間

それぞれ隔月開催 (2020年)
↓
E-Learning化 (2021年)

お客様プロフィール



お名前: 伊藤 肇 様
 役職: 部長、グローバルITリーダー
 部門名:
 情報システム部

主な担当業務:

各種技術開発を経て2016年に情報システム部へ、グローバルでのIT活用推進をリード。



お名前: 田中 文二 様
 役職: マネージャー
 部門名:
 情報システム部
 グローバルIT戦略室

主な担当業務:

情報システム部でTableauの普及と推進を担当。



お名前: 筒井 誠 様
 役職: マネージャー
 部門名:
 情報システム部 ITコンピテンスセンター コミュニケーショングループ

主な担当業務:

業務部門でTableau推進などを担当した後、情報システム部でTableauの普及と推進を担当。

Tableauについての質問

Q1. Tableauで感動したことは?

「データベースと直接つながることに感動しました。SQL文を書けなくても、中上級者レベルのデータ抽出を行える点は革命的です。併せて直感的な操作でビジュアル分析ができる。これが両方できるツールはこれまでになく、既存のツールとは全く別物だということが理解できました」

Q2. Tableau導入後の変化は?

「情報システム部ではクラウド化を推進するなど、仕事の質の変革に積極的に取り組んできました。BIプラットフォームの確立もその1つです。守りのITだけでなく、ビジネスに貢献する攻めのITを実現することが我々のミッションです。Tableauはそのための重要な武器の1つとなっています」

Q3. Tableauでしたいことは?

「レポート作成のセルフサービス化に加えて、一部のユーザーはTableau Prep Builderを利用したデータ準備についてもセルフで行う状況になってきています。意思決定に必要なデータをタイムリーに提示するためには“デジタル民主化”の範囲を常に拡大する必要がありますと認識しています」

の目で新しかった」「成果への最短ルートかもしれないと感じた」など、前向きなコメントが多く寄せられたと言います。

その後、AGC独自のTableauカリキュラムを作り上げた上で「Tableau Boot Camp」という社内講習会もスタート。トータルで280ページ以上、30を超える演習が盛り込まれたオリジナルテキストを作成し、月に1回のペースで開催されています。その後このカリキュラムは大幅に拡充され、現在ではオリジナルテキストのボリュームが1,000ページに達しており、8段階のコースが提供されています。ここまで充実したカリキュラムを用意しているユーザー企業は、日本国内の製造業としては珍しいと言えるでしょう。

「この他にも、情報システム部がユーザーと伴走しながらTableau活用を支援する取り組みも行っています」と田中氏。ここで重視しているのは、利用部門が自分の手でVizを作り上げることだと説明します。「誰かを介さねば分析ができないというのでは、Tableauのメリットを生かせません。デジタル民主化を実現するためには情報システム部員ではなく、ユーザー一人一人に主役になってもらうことが必要なのです」。

このような取り組みの結果、Tableau活用は急速に拡大。現在では社内のほぼ全ての部門で利用されており、ユーザー数は2,800名に上っています。

「ここまで普及したのは、Tableauに関する社内教育がかなり手厚かったからだと思います」と語るのは、以前は利用部門でTableau活用推進を担当し、現在はAGC情報システム部ITコンピテンスセンター コミュニケーショングループでマネージャーを務める筒井 誠 氏です。情報システム部門が積極的に働きかけてくれたことが、自律的な活用拡大に大きな貢献を果たしていると指摘します。「最近ではテレワーク導入もあり、教育の形式も変化しつつあります。以前はオンサイトと中継を組み合わせていましたが、その後Web会議が利用されるようになり、現在ではeラーニングも行われています」。

Tableau 選定の理由

それではなぜ自律的なデータ活用プラットフォームとして、Tableauが選ばれたのでしょうか。田中氏は次の3点をその理由として挙げています。

1. 複数システムとの接続性

AGCは事業が多岐にわたるため、社内システムも数多く存在します。また組織の統廃合によってシステムが変化することも多く、ユーザー部門が自らデータベースを立ち上げるケースも少なくありません。これらのデータソースから直接データを吸い上げて分析を行うには、接続性の高さが不可欠です。Tableauには幅広いコネクタが用意されており、多様なデータソースへの接続がサポートされています。

2. 簡単かつ軽快な操作性

ユーザーに自律的に使ってもらうには、プログラミングなどの高度な知識がなくても使いこなすことができ、使い勝手も軽快なものが必要です。これに関してもTableauは、期待に十分応えられるものだと評価されました。

3. スモールスタートが可能な料金体系

Tableauは柔軟性の高い料金体系となっており、小さく始めて段階的に利用を拡大することが容易です。「使いこなした時に十分な投資効果が感じられる操作レベル」を目標に社内教育のカリキュラムを構成しています。

Tableau 導入効果

すでにAGCでは数多くの事業部門でTableauが活用されており、以下のような効果をもたらしています。

レポート作成時間の削減

以前はレポート作成に8割、それをもとに考えるのに2割という時間配分でしたが、これが完全に逆転しています。その結果、データにもとづくPDCAサイクルを、以前よりも高速に回せるようになっています。

システム構築のパラダイムシフト

以前は帳票画面を1つ作るだけで、ユーザー要望のヒアリングから要件定義、設計、構築まで、数か月かかるのが当たり前でした。しかしTableau導入後は、まずはVizを作りレビューをした上で、問題があれば作り直すというアプローチに変化しています。これによって1日に複数回レビューと修正を繰り返す、といった極めて俊敏な開発も可能になっています。

データ活用に対する発想の広がり

事業部門が自らVizを作成して活用することで、活用されるデータそのものにも広がりが出ています。情報システム部門から見ると「そんなデータも分析対象になるのか」と、驚くような活用をしているユーザーも少なくないと言います。

今後の展開について

「事業部門がセルフサービス型でTableauを使えるようにしたことで、データを自らの手で操作する『デジタル民主化』が進展しています」と田中氏。これに伴いDXも加速しつつあると語ります。その取り組みが評価され、2020年8月には、経済産業省が東京証券取引所と共同で選定する「DX銘柄2020」にも選出されています。

「すでに国内ではTableauによるデータ利活用が進んでいますが、今後は海外でも同じレベルまで引き上げていきたいと考えています」と伊藤氏。そのためには情報システム部門も、継続的に仕事の質を変えていく必要があると語ります。「『脱皮できない蛇は死ぬ』、これは哲学者ニーチェの言葉ですが、IT部門も同様だと思います。私たちが果たすべき役割は、システムではなく付加価値を提供すること。そのための重要な武器の1つがTableauなのです」。

無料トライアル版をダウンロードして、ぜひTableauをお試しください。

<http://www.tableau.com/ja-jp/trial>

Tableau Software (Email: japan@tableau.com)